



1 月 号

平成 31 年 1 月 1 日発行
 【発行者】〒168-8510
 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
 社会福祉法人 浴風会 京極 高宣
 TEL (代表) 03-3334-2101
<http://www.yokufukai.or.jp/>
 【編集者】露口 長
 【印刷所】株式会社サイド・ビー

賀 正

平成 31 年 元旦
 社会福祉法人 浴風会
 理事長 京極 高宣
 役員一同



河口湖畔（大石公園）よりの富士山

写真提供 第三南陽園

平井 一浩

平成三十一年新年のご挨拶

理事長 京極 高宣



平成三十一年（二〇一九年）一〇〇周年（二〇二五年）に（技術革新と組織改革）を行
 の年頭のご挨拶を申し上げます。向けて、高齢者医療・介護・う決意を述べたものでした。
 福祉のザ・センター・オブ・また今年は私が主宰してい

去年は、初頭に冬季オリ
 ピック・パラリンピックで日本
 選手が活躍した輝かしい年で
 あった反面、西日本の豪雨災
 害など歴史的な自然災害が続
 き、また年末には日産自動車の
 元ゴーン会長らの金融証券取引
 法違反の罪での起訴などといっ
 た忌まわしい事件が起こった年
 でもありました。また当法人に
 とっても十一月に名誉会長の山
 下眞臣さん（九十一歳）と会長
 の近藤純五郎さん（七十五歳）
 の重なる訃報が入った悲しい年
 でもありました。

さて、去年の当会各事業の取
 組みに関しては、お蔭様で、ほ
 とんどすべて順調に推移してお
 ります。本年におきましては、
 九〇周年の記念標語「地域と共
 に未来を拓く」に基き、創立
 法人経営のイノベーション
 一〇〇周年（二〇二五年）に（技術革新と組織改革）を行
 向けて、高齢者医療・介護・う決意を述べたものでした。
 福祉のザ・センター・オブ・また今年は私が主宰してい
 センターズを指すべく、中
 期計画の策定を初めとして、
 人材確保と地域貢献を重点課
 題に、数々の法人改革を進め
 てまいります。

ちなみに、平成二十九年六
 月の理事会での、私の理事長
 再任のご挨拶で世界的な経営
 学者ピーター・ドラッカーの
 有名な金言を引用しました。
 すなわち「これからは、イノ
 ベーションがトップマネジメ
 ントの能力を計る試金石とな
 る」を引用させていただきま
 したが、その意味は今日の社
 会福祉法人改革を目前に、伝
 統ある有力法人が過去の実績
 にとかく胡坐をかくことのな
 いよう、私を含め浴風会トッ
 プマネジャーが気を引き締め
 法人経営のイノベーション
 最後は私ごとで恐縮です
 が、去年はフレイル予防に失
 敗し、入退院を繰り返す、皆
 様に大変ご心配をおかけしま
 したので、今年こそ心機一転
 して、生活習慣を改め新たな
 フレイル予防に取り組み、諸
 活動に一大奮起するつもりで
 す。

「死ぬことから考える尊厳のある医療・ケア」フォーラム ～ 著名な実践者のリレートーク～

浴風会ケアスクール 校長 服部 安子



平成 30 年 11 月 30 日、有楽町朝日ホールで、当会主催のフォーラムが約 650 名の参加を得て開催されました。本フォーラムは、人はその終末期に、どのような尊厳のある医療やケアを受けることが可能なのか、生き方と死に方について、参加者と共に学び、考えていくという趣旨のもとに、全国生活協同組合連合会から助成金をいただいで企画したものです。京極理事長の開会あいさつに続き、第Ⅰ部が基調講演、第Ⅱ部は「笑顔の終末期」として 4 人の著名人のリレートーク、第Ⅲ部はソノール東京のミニコンサートが行われました。

1 「尊厳のある終末期の迎え方」 ～ 平穏死のすすめ～

第Ⅰ部の基調講演では、「平穏死」で有名な世田谷区の特別養護老人ホーム芦花ホーム常勤医の石飛幸三先生がお話されました。

先生は、血管外科医として有名だった自らの過去と決別し、70 歳になって芦花ホームの医師となり、多くの高齢者の終末期を看取りながら、老年医療のあり方について考えてこられました。

高齢者となり認知症を患い、寝たきりになった人々に対して、積極的な治療が必要か、食事もとれなくなつたのに胃瘻やその他の延命を図ろうとすることは、



家族も医者も責任逃れをしているのではないか。老人ホームで看取りを体験する中で、ご家族に見守られながら、特別な処置を行うことなく、安らかに死を迎えることこそ、人の終末であることを確信し、「食べないから死ぬのではない、死ぬから食べないのだから」現状と対峙する。これまでの医療・福祉の専門職は、毎日 1500 kcal を食べるように強要し、胃瘻でただ生かすことが必至と考え、それが、終末期の人や家族にとって幸せなのか。生に寄り添い、死に思いをはせながら看取るという事が、まさに「平穏死」であり、死にゆく人を中心とした人間らしい穏やかな最期を迎えられることが出来る。また平穏死を迎えるためには、本人が延命治療を望むかどうかの事前指示 (ACP) が大事であり、健康保険証の裏に延命治療を望むかどうかの意志表示をさせることなど、国としても整備する必要があると提言されました。

2 「笑顔で長生き、認知症で臨終」

第Ⅱ部のリレートークでは、まず浴風会認知症介護研究・研修東京センター長の山口晴保先生がオーガナイザーとして、認知症ボジティブの話をされました。

人間は高齢になると誰もが 100% 死に、長生きすれば誰もが認知症になる確率が高くなる。また認知症は長生きの勲章でもあり、死が怖くなくなるという点でよいこともあることが示されました。

認知症高齢者の終末期では、自らの意思表示ができなくなるので、終末期の医療面で患



者や家族の意思として、意思疎通ができるときに、事前指示書を作成しておく、そして終末期に出会う医師、専門職、病院、事業所の重要性を話されました。

そして認知症予防のためには「認知症になる事を恐れるのではなく、老いを受け入れ、認知症を受け入れ、今を楽しめ、ポジティブに人生を楽しんでいくことが肝要」とエールも含めて話されました。

3 「家で天寿をまっとうする方法」 ～ 最後まで自宅で自分らしく 生きるを支える～

二人目は、医療法人アムス理事長の太田秀樹先生から話されました。太田先生は、27 年前から栃木県において 24 時間 365 日の在宅医療に取り組み、現在機能強化型在宅療養支援診療所 4 か所、訪問看護ステーション、老人保健施設等を展開しています。20

年以上前、在宅医療・訪問看護はほとんど知られておらず、終末期は病院が主流であったが、現在は家で天寿を全うすることができるようになった。統計的に 85 歳以上になる





三人目は医療法人大誠会内田病院理事長の
田中志子先生が話され
ました。

内田病院（群馬県）
では、高齢者及び認知
症の方々に、看取りも
含めていかにその人ら
しい療養生活を送って

4「拘束ゼロの医療でハッピーエンドオ ブライフケア

三人目は医療法人大誠会内田病院理事長の田中志子先生が話されました。

と3人に1人は認知症となり、死亡リスクが高まり、命を救い・病気を治すという医学の力が及ばなくなつて死んでいく。しかし、高度医療がもたらした結果として、最近では、人工呼吸器などで無理やりに生かされているという現実がある。

超高齢社会・多死社会においては、急性期医療は病院で、看取り医療はかかりつけ医が行う痛みなしの緩和ケアとQOLを重視した地域完結型の医療を行うことが重要。暮らしの場で、本人、家族、知人、医療・福祉の専門職等で命をつなぐことで人との結びつきが強くなり、患者・家族の意思決定支援も行っていくことができるようになる。

終末期の在宅医療の基本は“おおらかに、好きなものを好きなだけ食べて、居心地の良い場所で自分らしく過ごしてもらおう”つまり気持ちよく暮らすことであり、これを達成するために地域包括ケアシステムがある。そして介護職、看護師、かかりつけ医の連携すなわち医療と介護の協働は必然であることを示されました。



リレートークの最後は、浴風会病院診療
部長の雨宮志門先
生が話されました。

5「浴風会で笑顔の終末期を目指す」 ～一人の主治医が 看取りまで関わり続ける～

リレートークの最後は、浴風会病院診療部長の雨宮志門先生が話されました。

もらうかに取り組んできており、看取りのことを「ハッピーエンド・オブ・ライフケア」と呼んでいます。

身体拘束体験などを通じて患者の気持ちを理解・把握することから始めて、現在では身体拘束をしないでBPSDに対応することができるようになった。

薬剤性せん妄やアルコール性認知症の方への対応についても、声かけやリハビリを根気よく行っていくことの重要性などがビデオ映像により示されました。現場スタッフにとつては大きな負担になるが、なぜそれができるかと言うと、「いかに拘束をしないか」ではなく「いかにBPSD（心的外傷ストレス障害）をつくらないか」という観点で、パーソン・センタード・ケアの理念のもと、本人に適した関わり方、本人が安心できる環境の形成に努めているからだということです。そして認知症の予防には、その人が生きがいを感じるような役割作りが重要であることが示されました。

部長の雨宮志門先生が話されました。

雨宮先生は、在宅医療の草分けである佐藤智先生（あさもと）の「病気は家庭的な雰囲気の中でなおすもの」との言葉の「家庭的

雰囲気」の言葉の意味を重くとらえ、特に看取りの場面においても、場所だけではなく、関わる人やモノのすべてが家庭的であることが必要と強調されました。

浴風会では、同一敷地内に病院と多くの介護施設が存在しており、幸いにも病院と介護施設との有機的な協働により、外来診療・訪問診療・入院治療・在宅診療、そして看取りの場面に至るまで同じスタッフが一貫して関わり続けることが可能な機能を有している。一人の主治医が患者に常に関わり続け、相互に関わり続けることによって、患者を中心とした家庭的雰囲気形成され、人生の最後がどんな場所であっても、笑顔で看取り看取られることができることが示されました。



第Ⅲ部は七澤清貴氏（さたけ）他3名から成るソノール東京による弦楽四重奏のミニコンサートで、ホワイトクリスマスなど数々の名曲が演奏されました。

フォーラム全体として、先生方の軽妙洒落な語り口に笑いも誘われながら、講演を皆様に熱心に聞き入っていました。アンケートから是非とも同じテーマでの開催を希望する声も多くありました。

浴風会の動き(12月)



餅つき大会(松風園)

【本部事務局】

1日 「富士見ヶ丘中学校」生徒80名
構内清掃ボランティア。

7日 「30年度第3回理事会」開催。

「事業中間報告」、「補正予算」について承認された。

8日 「富士見ヶ丘キリスト教会」賛美歌慰問。

美歌慰問。

19日 「天沼教会」賛美歌慰問。

28日 「職員交流会」を開催。

31日 「除夜の鐘」礼拝堂。(浅井)

浴風会ケアスクール

Caféオレンジリボンウッド

3日 毎週月曜日 「介護職員初任者研修」12期生・19名・講師・大津陽子氏、越智佳子氏、(職員)宮島、服部、鈴木。

4日 新宿区受託事業「第2回地域安心カフェ」連絡会。(職員)服部、扇野。

10日 「café オレンジリボンウッド」開店。来店者72名、ボランティアの皆さまにご協力を頂き、「クリスマス生バンド演奏会」を開催しました。クリ

スマスソング等を口ずさみ、楽しいひと時を過ごしました。次回は1月25日(金)本館1階第三会議室にて開店いたします。パン、焼き菓子、コーヒーの他素敵な小物の販売と、折り紙など一緒に楽しめる手作りコーナーもあります。みなさまのご来店をお待ちしております。

12日 「よくふう語ろう会(認知症介護家族会)」参加者19名。

26日 「介護職員初任者研修」12期生修了式。修了生21名(補講生2名含む)。(鈴木)

【老人福祉事業】

浴風園 (養護老人ホーム)

5日 「餅つき大会」を食堂で開催。地域ボランティアの方々や職員による餅つき実演を行い、昼食にお餅料理をご用意しました。

のりおかか、ごま、きなこ、からみ餅の他、お汁粉やお雑煮もご用意し、様々な味付けをお楽しみいただきました。



19日 「クラブ発表会」を大ホールで開催。大正琴、気功、カラオケ、歌おう会の計4クラブによる活動発表が行われました。最後はクラブ員以外の皆様も一緒に歌を歌い、1年の締めくくりの行事となりました。(宮崎)

松風園 (軽費老人ホーム)

4日 「餅つき大会」開催。高井戸・原郷土会の皆様を中心に、利用者の皆様や職員が協力して、立派な鏡餅が完成。全部で8臼のお餅はお雑煮、あんこ、からみ、のりおかか、黄粉で味付けをし、昼食時につきたてのお餅を楽しみました。

百歳を迎える方をはじめ、90代、80代の利用者の方も参加され、力自慢を披露していただきました。

13日 クラブ活動などで磨かれた腕前や、ひそかに練習していた特技などをご披露いただき、オードブルなどで昼食。最後は毎年恒例となっている職員一同のダンスで大笑いし、楽しいひと時を過ごしました。(宮中)

浴風会ケアハウス

5・6日 「居室点検」実施。健康的で安全な環境の大切さを考える良い機会です。

11日 「もちつき会」。原郷土会の皆様にご協力を頂き、盛大に開催しました。

25日 今年最後のカフェケアハウスはささやかなクリスマス会となりました。(隈本)

【介護保険事業】

南陽園 (特別養護老人ホーム)

3日 「餅つき」開催。搗きたての餅をお雑煮や、あんこ・きな粉餅などにしていたいただきました。

8日 富士見ヶ丘キリスト教会の皆さまによる讃美歌の訪問があり、素敵な歌声を披露していただきました。



17・22日 柚子湯を楽しんでいただきました。

3・23日 各階で「年忘れ会」開催。※インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が流行る時期になりました。手洗い、うがいの徹底を図り感染症の予防に努めています。ご来園の際には、ご協力をお願いいたします。(丸山)

南陽園在宅サービスセンター

(認知症対応型通所介護)

当センターでは、近隣のご高齢者を対象に、南陽園機能訓練室を毎週水曜日の午後と月二回程土曜日の午後開放し、筋力トレーニングマシンを自由にご利用いただいております。

この取り組みは、東京都社会福祉協議会主催「つながれ ひろがれ ちいきの輪」に、昨年度に引き続きもの木トレニングとして登録致しました。

寒い時期となりますが、今後とも多くの方にご利用して頂き、地域に寄り添い・交流する場として、繋がりを推進して参りたいと思います。(徳増)

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。

◎電話 03-3334-2743 (徳増・工藤)

第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

3・5日 「餅つき」を開催。搗きたての餅を餡・きな粉等からめ、おやつに召し上がっていただきました。

8日 讃美歌の訪問があり素敵な歌声

を披露していただきました。

10日 フワラーアレンジメントでクリスマス飾りを作りました。
作品は先生が玄関に飾ってくださいました。



21〜23日までの入浴では、ゆず湯を行いました。湯船に浮かぶゆずの香りが浴室に漂い身体も温まりました。

12月は各フロアで「年忘れ会」を開催。ご家族による演奏会やおやつ作りを楽しみました。

(山崎)

第二南陽園在宅サービスセンター

(通所介護、介護予防通所介護)

1日 紙粘土や折り紙で、恒例の干支のイノシシの置物を作りました。

3日 12月から新たな手工芸活動で、陶芸を始めました。ボランティアによる活動です。形を整えるところまでやり、焼いたりの工程は工房で行われ、約1か月後に完成して戻ってきます。

25日 「年忘れ会」。有志のハンドベル演奏、クッキー作り等を行いました。

(尾瀨)

★見学申し込みやデイサービスへの質問やお問い合わせは随時受け付けています。

◎03-3334-2140

第三南陽園 (特別養護老人ホーム)

3〜6日 「お餅つき大会」をフロア毎に開催。「よいしょ!」の掛け声に合わせて勢いよくお餅をつきました。つきたての柔らかいお餅にたっぷりあんこを付けて、他には、きな粉、みたらし、大根おろしをまぶして「やわら

かくておいしいね。」とたくさん召し上がられていました。衣付けではたくさんさんのボランティアさんの力をお借りしました。ありがとうございます。

4日 「杉並シニアアンサンブルオーケストラの訪問演奏会」が実現!心の底に響く生の弦の音色は素晴らしい、感激で涙されるご利用者も。定期演奏会をお願いしました!

20〜22日 柚子湯ではご利用者の多くの方から「良い香り」と感想が聞かれ、ゆっくり入浴を楽しまれました。

(谷口)

グループホームひまわり

10日 富士見丘小学校交流訪問。小学生のみんなが授業の一環で訪問に来てくれました。一緒に話をしたり、歌を唄ったりしながら交流をしました。楽しいひと時を過ごす事ができ、皆さん大喜びでした。帰りにはありがとうございます。また来てねと笑顔で見送りました。

18日 外食。外での食事はおいしいのはもちろんのこと、いつもと雰囲気も違うこともあってか、おかわりされる方や、普段少食の方もたくさん召し上がられていました。会話にもこやかにされ楽しまれている様子が見られました。

(村下)

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

担当地域の中学校の「地域教育連絡協議会」の懇談会に参加させて頂き、

地域の子どもたちについて考える機会がありました。社会の変化の中で家族の形態も多様になって来ます。その中で、再度、地域の中で子どもを育てて行くことが重要になって来ているのだと感じました。また、小学校での作品発表会を見せて頂いても、子どもたちの自由な発想には、凄いなあと感心させられます。そんな素敵な子どもたちの育ちを人生の大先輩も一緒に考えていく。歳を重ね、様々な体験をしてきたノウハウを伝えながら、改めて自分たちの地域の暮らしを考えて行く。そんな場をこの地域で創れたらと、来年、2月28日(木)に生活支援体制整備の第2層協議体開催を予定しています。また、皆様にもご案内させて頂きますので、是非、ご一緒に考えて頂ければと思います。

(尾関)

杉並区地域包括支援センター

ケア24高井戸

◎電話03-3334-2495

【病院事業】

浴風会病院

区民健診(杉並区)の当院での受診期間が1月31日(木)までとなっております。

まだ健診がお済でない方は、お急ぎのご予約をお願いいたします。(中澤)

◎03-3332-6511 (代表)

老健くぬぎ

(介護老人保健施設)

8日 2階入所フロアにボランティア

による讚美歌コンサートがありました。毎年恒例となっておりますが、クリスマスが近づいてきたことを感じられるコンサートになりました。

12・24・28日 演奏ボランティアによるコンサートを開催しました。12日はギター演奏で24日はオカリナの演奏がありました。28日は定例のフルート演奏でした。ご利用者も毎回の演奏を楽しみにされていました。

25日 「クリスマス会」開催。ご利用者の皆さまに楽しんでいただけたました。



(森屋)

★入所・デイケア・ショートステイで利用のご相談はお気軽にご連絡ください。

◎03-5336-7701 (代表)

◎03-5336-7734 (入所)

◎03-5336-7704 (デイケア)

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

1日 ポジティブ!ミニ山口塾(高知) 47名受講

8日 ポジティブ!ミニ山口塾(沖縄) 79名受講

11月26日〜12月14日 第3回前期認知症介護指導者養成研修(23名受講)

13〜14日 第12回認知症地域支援推進員研修(千代田区・269名修了)

17日 AI介護研修会

*第11回認知症地域支援推進員研修修了者数157名 (村上)

浴 風 会 事 業 の 現 況 (2018/12/1現在)

事業名	種 類	施 設 名		定 員	利用者	利 用 率	待機者数		従事者 総数
老人福祉事業	養護老人ホーム	浴 風 園		205	203	99.0%	杉並区 他区	0 5	37
	軽費老人ホーム A型	松 風 園		200	199	99.5%	杉並区 他区	549 292	22
	軽費老人ホーム ケアハウス	ケ ア ハ ウ ス		100	100	100.0%	杉並区	1,537	8
	小 計			505	502	99.4%	2,383		67
介護保険事業	特別養護老人ホーム	南 陽 園	入所	254	238	93.7%	A ランク B・Cランク	358 204	140
			内ショートステイ	(12)	(26)	—			81
		第 二 南 陽 園	入所	156	145	92.9%			121
			内ショートステイ	(6)	(10)	—			
		第 三 南 陽 園	入所	222	212	95.5%			—
			内ショートステイ	(15)	(30)	—			
	小 計			632	595	94.1%	562		342
	認知症高齢者グループホーム	グループホームひまわり		18	18	100.0%	22		13
	デイサービスセンター	南陽園在宅サービスセンター (認知症高齢者デイサービス・配食サービス)		12	9	75.0%	—		5
		第二南陽園在宅サービスセンター		40	29	72.5%	—		13
	小 計			52	38	73.1%	—		18
	地域サービス事業	包括的支援事業	杉並区地域包括支援センター (ケア24高井戸)		—	258	—	—	
居宅介護支援事業		居宅介護支援事業所		—	184	—	—		5
訪問介護事業		ヘルパーステーション (含:シルバーピア11ヶ所)		—	65	—	—		17
小 計			—	507	—	—		29	
よくふう保育園				15	14	93.3%	—		—
高齢者保健医療 総合センター	病院事業	浴風会病院	入院	250	234	93.6%	—		290
			外来	—	277	—	—		—
	老人保健施設	老 健 くぬぎ	入所	100	82	82.0%	—		57
			通所リハ	30	15	50.0%	—		—
認知症介護研究・研修東京センター				研究事業 研修事業	—	—	—		20
法人本部	総務部・財務部・企画開発本部(研修企画部)・事業本部			—	—	—	—		8
	浴風会ケアスクール	介護職員初任者研修・地域交流		—	—	—	—		4
合 計				1,602	2,282	—	2,967		848

編集後記

昨年12月号の計報でお知らせしたように、当会前会長(名誉会長)山下眞臣氏並びに会長近藤純五郎氏には、11月に逝去されました。ともに15年の長きにわたり浴風会事業発展のためにご尽力賜りました。

つきましては、この1月号は、弔意を表し、幹部挨拶は新年度が始まる4月号に改めて掲載することといたしました。

山下、近藤両氏については、厚生省現役時代から上司としてご指導いただき、さらにまた、当会の運営に対して、終始温かく見守っていただきながら、節目節目には的確なご助言をいただいてまいりました。編集子にとっても痛恨の極みであります。茲にあらためてお二人のご冥福をお祈りいたします。

5月に改元され新たな年号となる本年が、皆様にとって良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

ご芳志

平成30年11月16日から

平成30年12月15日

多くの方々よりご芳情を
いただきました。

ありがとうございました。

〈金品・物品〉

宮沢 郁子様、林 四郎様、小山 宏子様、
土屋 雄一様、立正佼成会杉並教会様
●ほか、各施設にもいただいております。

【ご意見をお寄せください】

〒168-8510 ※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

soumu2@yokufukai.or.jp

http://www.yokufukai.or.jp/